

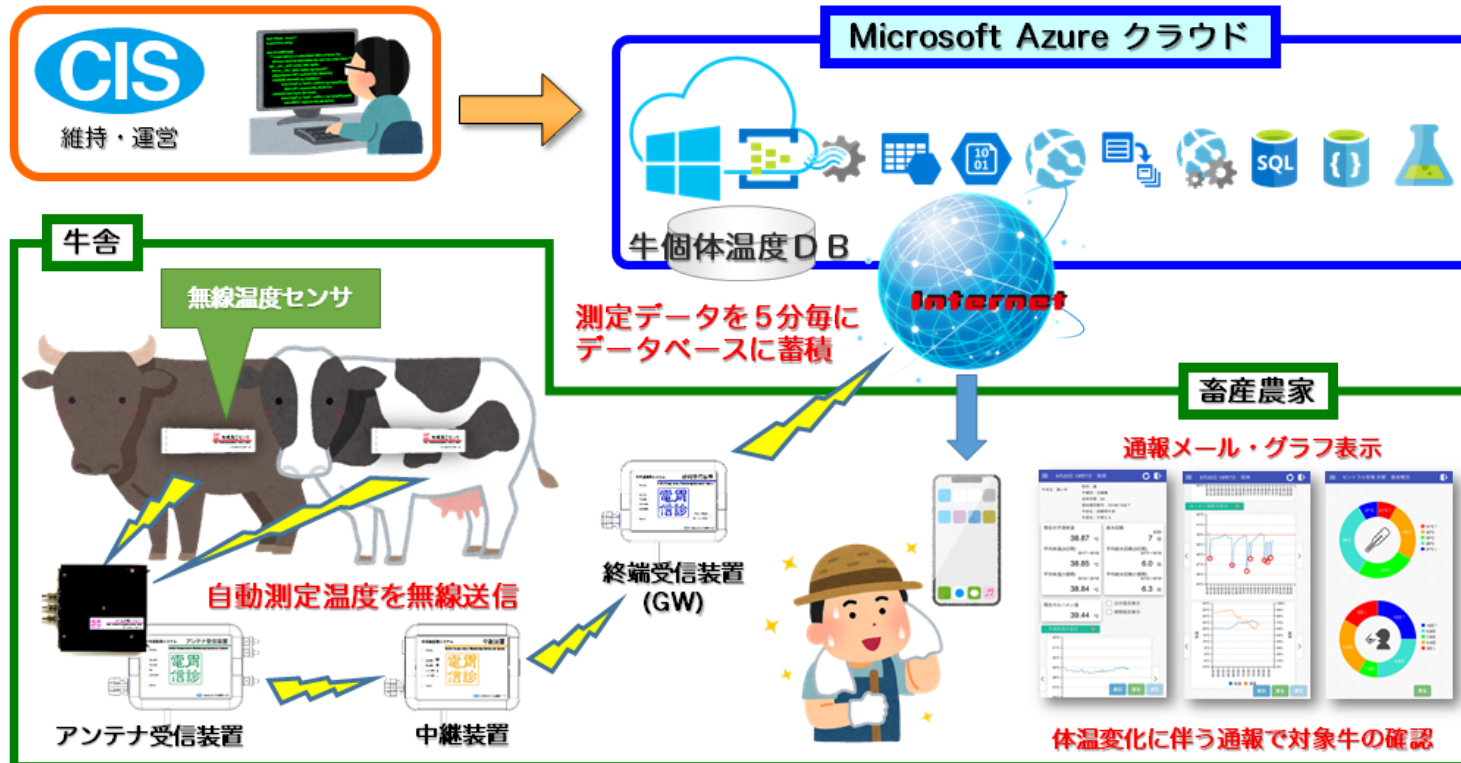
牛体温監視システム 胃診電信

概要

- 牛の胃(第一胃:ルーメン)の中に無線温度センサーを留置し、内部温度を5分毎に測定、胃内部から無線送信された温度データは牛舎内アンテナで受信し、終端受信装置からインターネットを経由して、クラウド上のデータセンタに送信&蓄積、収集データの分析を行い個体毎の体温変化を監視し、通常より低温・高温を示す個体情報をアプリでの表示やメールにより通知する。

導入効果

- 1度ルーメン内に留置した後は、自動的に5分毎に検温を行うため、分娩・発情などイベントがある毎に装置を取り付ける等の不要なストレスを与えず、さらに繋ぎやフリーストール等飼育形態による影響無し。
- 発情については、発情兆候に伴う体温変化の開始時刻と終了時刻を通知。授精適期を判断出来る。
- 分娩については、通知後24時間以内の娩出を通知。無駄な監視のための人件費を抑制し、分娩準備可能。
- また娩出後も継続して検温を行うため、分娩後発症しやすい周産期病などに伴う体温変化に対応。
- 連続計測することで、体調変化に伴う体温の動きを目視で直観的に捉えられ、早い時期に獣医相談可能。



胃診電信®

○対象品目

水稲	畑作	露地野菜	施設園芸	果樹	茶	花き
酪農	肉用牛	養豚	養鶏	飼料作物		
沿岸漁業	養殖業	沖・遠洋漁業	その他水産業	林業		その他

○該当するニーズ

項目	家畜管理等
技術ニーズ	家畜管理 行動観察
具体的なニーズの内容	体温、心拍、呼吸等の連続測定により発情・分娩・健康管理等を行うシステム

○開発等の段階

開発/実証中	
モニター販売中	
一般販売中	○
その他	

製品紹介ページ →

☎連絡先
 (株)セントラル情報サービス
 牛プロジェクトチーム
 TEL:06-6538-2532
<http://www.cisnet.co.jp/>
ishindenshin@cisnet.co.jp

